

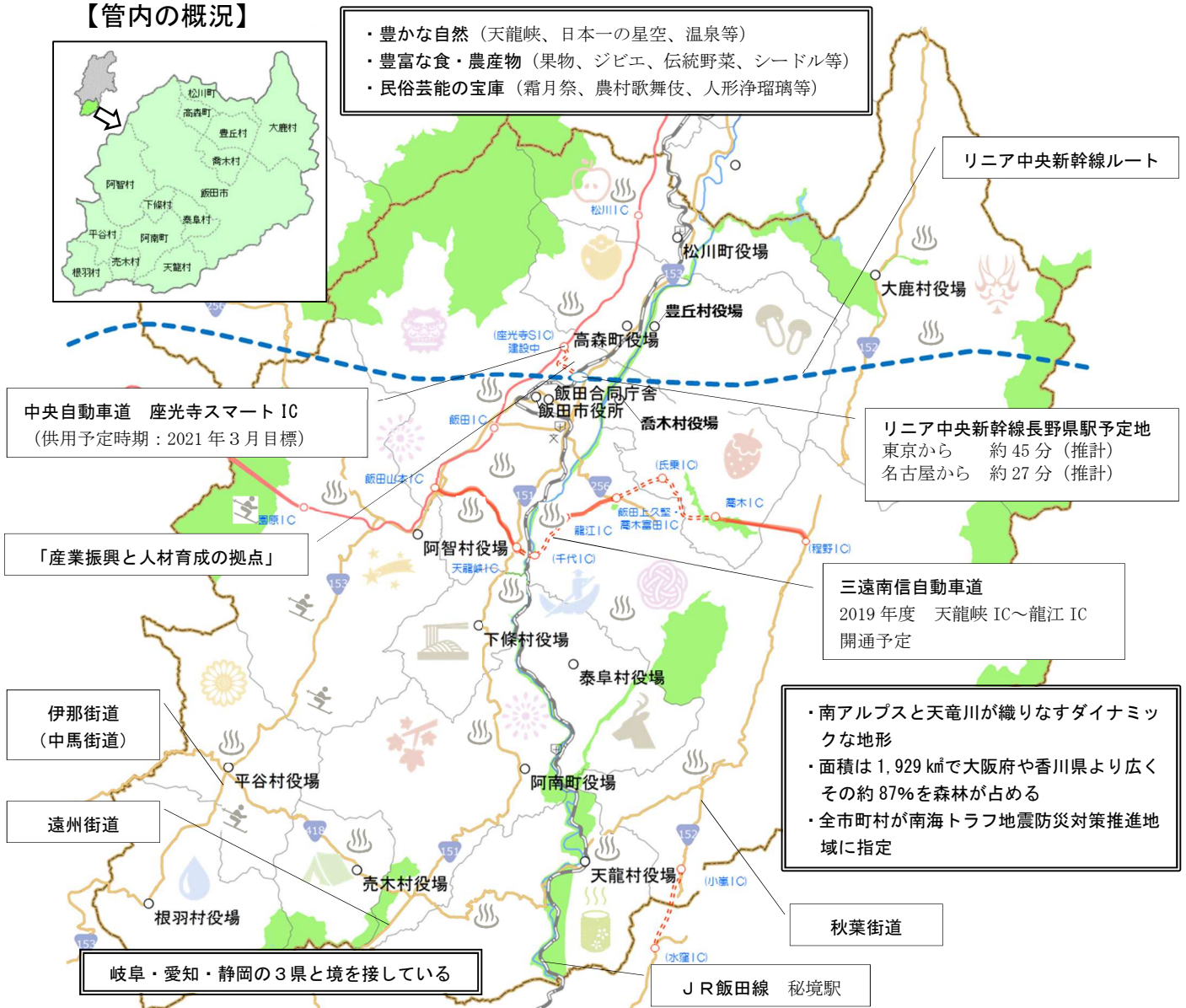
南信州地域

(飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、
売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村)

南信州地域の特性

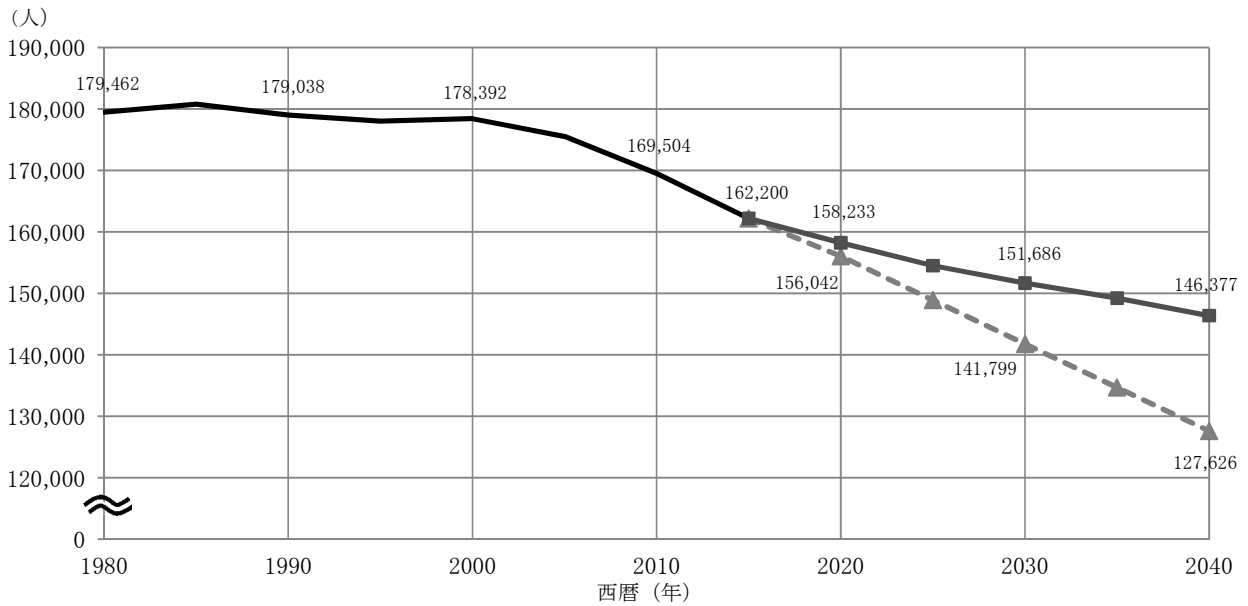
- ・古くから三河（愛知県）や遠州（静岡県）と信州を結ぶ南の玄関口として発展してきました。豊かな自然環境の中、特色ある伝統文化が育まれ、人形芝居や農村歌舞伎等の民俗芸能が数多く点在し、「民俗芸能の宝庫」と呼ばれています。
- ・産業は、精密加工技術が集積し、それを活かした航空宇宙プロジェクトなど次世代産業の取組が進むとともに、水引や半生菓子等の地場産品の製造や、温暖な気候・中山間地域の地勢を活かした多様な農林畜産物の生産が行われています。
- ・高齢者就業率はトップクラス、健康長寿でいきいきと暮らす人が多く、高齢化が進む中において他地域のモデルとなり得る可能性を有しています。
- ・2027年にはリニア中央新幹線及び飯田市内の長野県駅の開業が予定され、三遠南信自動車道（飯田市～静岡県浜松市）の整備も進むことで、ヒト・モノの交流が飛躍的に増大することが予想されます。

【管内の概況】



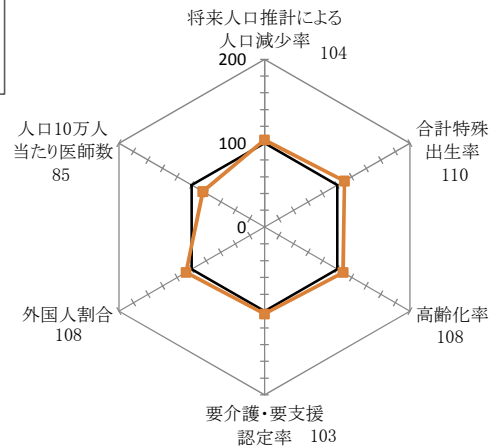
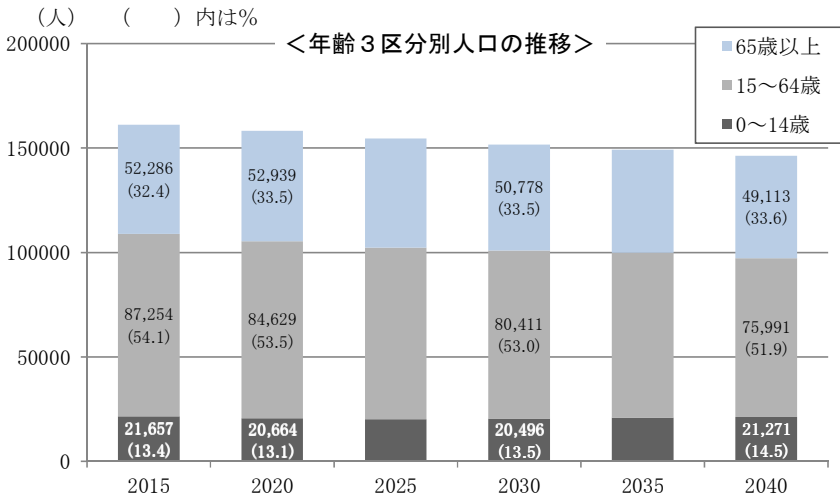
【人口】

＜南信州地域の人口の推移＞

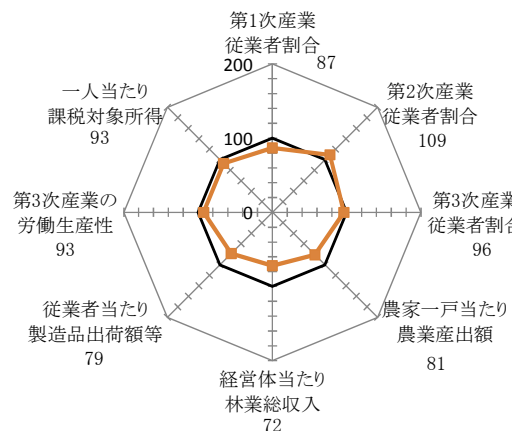
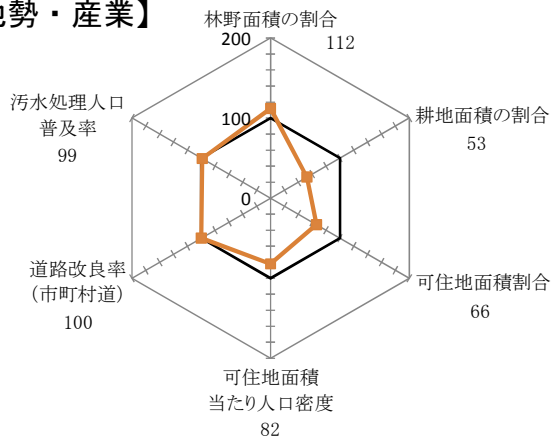


注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計、及び市町村人口ビジョン(地方創生総合戦略)

＜年齢3区分別人口の推移＞



【地勢・産業】



注) 各指標は長野県全体を100として南信州地域と比較(指数)

- ・人口は、信州創生戦略及び市町村人口ビジョンに沿って人口減少に歯止めをかける政策を講じることにより、2040年に約14.6万人(社人研準拠推計+約1.8万人)となる見込みです。
- ・全県と比較して高齢化率が高く、65歳以上人口の割合は2020年度以降約34%で推移する見込みです。
- ・地勢・産業は、全県と比較して「農家一戸当たり農業産出額」「経営体当たり林業総収入」が低く、農林業の収益性の向上が課題です。また、「従業者当たり製造品出荷額等」が低く、製造業の労働生産性の向上が課題です。

地域のめざす姿

伝統と最先端が響き合う「リニア新時代」のフロンティア～南信州～

【「リニア新時代」の南信州地域の姿】

10年後に迫るリニア中央新幹線の開業により、飯田市内の長野県駅へ東京から約45分、名古屋から約27分で到着できるようになり、大都市圏との移動時間が大幅に短縮します。加えて、三遠南信自動車道の整備により、飯田市から静岡県浜松市の所要時間が大幅に短縮され、南信州地域と遠州地域とのアクセスが格段に向上します。まさに、南信州地域の新たな時代の幕開けであり、地域の更なる発展が期待されています。

このような地の利を活かし、三大都市圏によるスーパー・メガリージョン*の一翼を担うとともに、「リニア新時代」にふさわしいフロンティアとなるべく、次のような地域をめざします。

○「研究開発型企業の集積地域」

- ・大学、公設研究機関、ベンチャー企業等が同居した研究開発支援拠点の整備
- ・県外企業が研究開発部門を移転、地域企業が研究開発分野に進出
- ・航空宇宙、次世代自動車、医療・バイオ等の成長分野に取り組む企業が集積

○「交流の一大拠点地域」

- ・リニア中央新幹線長野県駅や三遠南信自動車道とのアクセス道路網、コンベンションセンター・アリーナ等の整備
- ・MICE*の誘致やインバウンド対応による国際交流、広域観光の拠点

○「ICT活用教育・学びの先進モデル地域」

- ・超高速通信回線の整備促進により、地域内の小規模校を含む全ての小・中学校で、ICTを活用した先進的教育環境を整備し、ICTと南信州地域の特性（豊かな自然環境、伝統文化等）を融合させた特色ある学びを实践
- ・遠隔生涯学習講座など、ICT環境を地域住民の学びの基盤として利活用

○「二地域居住やU I Jターンの全国モデル地域」

- ・大都市圏との時間短縮効果と大自然との近接性を活かした「行ってみたいまち、住んでみたいまち」＝「南信州」ブランドの確立
- ・サテライトオフィス等による遠隔勤務、二地域居住やU I Jターンなど多様なライフスタイルを営む拠点

【今後5年間の「めざす姿」と「地域重点政策」】

「リニア新時代」の将来像を見据え、今後5年間でめざす当地域の姿と、重点的に取り組む政策（地域重点政策）を次のとおり掲げます。

1 地域の潜在力を活かした産業が躍進する南信州

- ・新たな成長産業の振興、産業人材づくり
- ・地域の特性を活かした地場産業・農林業の振興
- ・南信州地域が一体となった広域観光の推進

2 豊かな自然・文化と共生し、人と地域が輝く南信州

- ・ 南信州地域が一体となった移住定住・郷学郷就の推進
- ・ 交流を促進するまちづくり・交通基盤整備
- ・ 南信州地域の「伝統文化」の保存・継承と活用

3 安全・安心な暮らしが実現できる南信州

- ・ 健康で暮らせる地域づくりと地域医療の充実
- ・ 誰もが生きがいを持ち、支え合う社会の形成
- ・ 災害に強い基盤整備の推進・地域防災体制づくり

また、めざす姿の実現に向けて、次の「基本的視点」のもとに、地域重点政策を展開していきます。

- ① 南信州の「強み」を伸ばし、「魅力」を更に高める
- ② 南信州としての「一体的な取組」を進める
- ③ 県境及び圏域を越えた連携を推進

地域重点政策



1 地域の潜在力を活かした産業が躍進する南信州

【現状と課題】

- ・ 労働生産性が県平均以下で、事業所数も減少傾向が続いており、新たな成長産業への事業展開の促進や地場産業の更なる振興と域外展開が必要です。
- ・ 高等学校卒業後に進学等により地域を離れる若者が多い中、地域産業の将来を担う人材の確保と育成が必要です。
- ・ 消費者ニーズの高い品目や新たな品種への転換等により、高品質で競争力の強い果樹産地づくりが必要です。
- ・ 収穫期に入った豊富な森林資源の利活用に向け、林業の収益性向上や間伐の促進に加え、地域材等の需要拡大や販路開拓が必要です。
- ・ 観光客数と観光消費額は減少傾向であり、地域内に点在する小規模ながら魅力的な観光地を活かすため、地域が一体となった広域観光の振興施策の推進が必要です。

【取組内容】

● 新たな成長産業の振興、産業人材づくり

- ・ 旧飯田工業高等学校の施設を利用した「産業振興と人材育成の拠点^注」等での、航空機産業をはじめとする成長期待分野や精密加工組立技術を活用した先進的のものづくり分野に取り組む人材の育成、企業の技術開発や設備投資等を支援します。
- ・ 南信州地域の企業・就職情報の一層の充実を図るとともに、東京・名古屋でのU I Jターン希望者向けの就職支援や、進学前の高校生や保護者を対象にした地元就職への意識付けに取り組みます。

注：2016年度から旧飯田工業高等学校の跡地を活用して整備が進められている施設で、信州大学航空機システム共同研究講座、長野県工業技術総合センター航空機産業支援サテライト、南信州・飯田産業センター等が集約されている。

● 地域の特性を活かした地場産業・農林業の振興

- ・水引や半生菓子など伝統技術を活用した地場産業の新市場の開拓、ブランド化等を支援します。
- ・市田柿のブランド力強化への取組やりんごの新品種「シナノリップ」など果樹県オリジナル品種の戦略的拡大により、管内最大の生産品目である果樹の更なる生産振興を図ります。
- ・シードルの製造など6次産業化の取組を支援し、農業の高付加価値化を図ります。
- ・ていざなす等の伝統野菜を含め、地元農林畜産物の更なる認知度の向上と安定生産を促進します。
- ・林業の収益性向上や間伐推進を図るため、路網整備や高性能林業機械の導入を支援するとともに、市町村等がめざす森林認証取得や森林認証材の普及啓発・ブランド化の支援等を通じ、地域材の流通拡大を促進します。

● 南信州地域が一体となった広域観光の推進

- ・南信州地域が一体となった観光地域づくりを推進するため、観光戦略の策定と戦略に基づくプロモーションを実施する地域連携DMOの設立を支援します。
- ・市町村や関係団体等と連携し、農林業や伝統工芸等の体験型観光やシードル等の観光資源を有機的につないだ周遊・滞在型観光プランづくりに取り組みます。
- ・周遊観光客の増加をめざし、隣接する愛知県東三河・静岡県遠州地域や上伊那・木曾地域と共同で情報発信を行いながら連携を深め、周遊モデルづくり等に取り組みます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
シードルの醸造量 (南信州地域振興局調)	40.0kl (2016年度)	55.0kl (2022年度)	南信州地域の醸造所におけるシードル(りんごワインを含む)の醸造量 [管内事業者への聞き取り調査をもとに設定]
観光消費額 観光地利用者統計 (観光部調)	97.7億円 (2016年)	108.5億円 (2022年)	管内の観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [観光地利用者数と1人当たり観光消費額の増加を見込み設定]
柿の栽培面積 (農政部調)	517ha (2016年度)	542ha (2022年度)	南信州地域における柿の栽培面積 [農業生産団体の目標をもとに設定(4ha/年(5年間で約20ha)の拡大)]
素材(木材)生産量 (林務部調)	34,554m ³ (2015年)	40,000m ³ (2022年)	建築・チップ用等に使用される木材(丸太等)の生産量 [搬出間伐面積の伸びや木質バイオマス利用の見込みを勘案し設定]



2 豊かな自然・文化と共生し、人と地域が輝く南信州

【現状と課題】

- ・若者世代が進学や就職等により地元を離れ、極端に少なくなっています。
- ・リニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道整備を見据えた道路ネットワークの整備が必要となっています。
- ・南信州地域の貴重な資産である民俗芸能が、地域コミュニティの弱体化等に伴う後継者の減少や不在から、存続の危機にさらされています。
- ・豊かな自然や景観、特色ある伝統文化、いきいきと暮らす人々の存在など、南信州地域の「財産」を活かした移住者や交流人口の増加に向けた取組が必要です。

【取組内容】

● 南信州地域が一体となった移住定住・郷学郷就の推進

- ・県・南信州広域連合・市町村で構成する「南信州暮らし」応援隊が主体の大都市圏での移住セミナーを開催し、南信州暮らしの魅力や仕事・住居等の情報を効果的に発信します。
- ・南信州地域の企業・就職情報の一層の充実を図るとともに、東京・名古屋でのU I Jターン希望者向けの就職支援や、進学前の高校生や保護者を対象にした地元就職への意識付けに取り組みます。
- ・農業に興味を持ち南信州地域へ移住を希望する方を対象とした体験型研修を実施するなど、南信州地域での「農ある暮らし」の定着を推進します。
- ・地域住民の生涯学習の取組や、市町村や地域づくり団体の行う、地域の歴史や文化、産業を学び、地域への愛着を深める取組を支援します。
- ・飯田O I D E長姫高等学校で実施している「地域人教育」や「自分たちでつくろうプロジェクト」など、地域課題に関わり実体験を伴う探究的な学びを促進します。
- ・市町村の行うICT活用教育や中山間地域の特性を活かした学び等の先進的な取組を支援します。

● 交流を促進するまちづくり・交通基盤整備

- ・リニア中央新幹線へのアクセス道路の整備や駅周辺整備、三遠南信自動車道へのアクセス道路及び三遠南信自動車道現道活用区間の整備を進めます。
- ・リニア中央新幹線開業を見据えたコンベンションセンター・アリーナ等の整備について、南信州広域連合等とともに検討します。
- ・交通弱者に配慮した効率的な交通体系の構築に向けて、南信州地域交通問題協議会や市町村が行う地域公共交通の確保・維持のための取組を支援します。
- ・日常生活や産業、教育など様々な活動の基礎となる情報通信基盤の整備や情報通信技術の利活用を促進します。
- ・公民館活動をはじめとした、地域住民が学びや交流を通じて自ら課題を発見し、その解決に向け自主的・主体的に取り組む地域づくり活動を支援します。
- ・南信州広域連合と市町村が推進する、都市企業との交流による地域の課題解決の取組

など、南信州地域と関わりを持つ「つながり人口」の拡大に向けた取組を支援します。

- ・地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の推進やレジ袋の削減、エコドライブの推進など、南信州地域の先駆的取組を活かした環境にやさしいライフスタイルへの転換を図るとともに、道路アダプト*システムや竹林整備等による環境美化・景観育成を促進し、更なる環境先進地域づくりに取り組みます。

● 南信州地域の「伝統文化」の保存・継承と活用

- ・「南信州における民俗芸能継承のための基本方針[※]」に基づく、民俗芸能団体や継承推進組織の行う担い手確保等の取組を支援します。
- ・民俗芸能の保存・継承に協力し支援いただける南信州民俗芸能パートナー企業の登録拡大を推進します。
- ・地域づくり団体等の行う、地域の特色ある伝統食材や郷土料理等の保存・継承のための取組を支援します。

注：民俗芸能の継承のために地域全体で推進すべき取組の方向性を示したものの。

民俗芸能団体や行政機関等で構成する「南信州民俗芸能継承推進協議会」が策定。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	152人 (2016年度)	212人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者等を除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]
リニア中央新幹線関連道路の供用開始箇所数 (建設部調)	0箇所 (2016年度)	3箇所 (2022年度)	リニア中央新幹線の関連道路のうち、2022年度までに供用開始される箇所数 [長野県リニア活用基本構想に基づき、リニア関連道路として整備をめざす箇所]
南信州民俗芸能パートナー企業登録企業・団体数 (南信州地域振興局調)	18 企業・団体 (2016年度)	70 企業・団体 (2022年度)	民俗芸能の保存・継承に協力し支援を行う南信州民俗芸能パートナー企業に登録された企業・団体数 [現在の取組状況をもとに設定]



3 安全・安心な暮らしが実現できる南信州

【現状と課題】

- ・全県と比較して65歳以上の人口割合が高く、高齢化が進んでいますが、高齢者の就業率はトップクラスとなっています。
- ・人口10万人当たりの医師数は県平均以下であり、加えて医師の高齢化による地域医療への影響が懸念されています。また、在宅医療を支える医療・介護従事者の確保が必要で、特に中山間地域への支援が必要となっています。
- ・増加する要介護高齢者と生活に困窮する高齢者世帯への対応が必要です。
- ・全市町村が南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、また、土砂災害等が発

生しやすい複雑な地形を有することから、地域の防災力の向上が求められています。

【取組内容】

● 健康で暮らせる地域づくりと地域医療の充実

- ・信州食育発信3つの星レストランの登録店舗の拡大など、健康に配慮した食環境整備を進めることにより、地域住民の健康づくりを推進します。
- ・分娩取扱機関の開設支援等により周産期医療体制の充実を図ります。
- ・飯田下伊那診療情報連携システム（ism-Link）*などICTを活用した情報共有ツールの利用拡大等により、在宅医療・介護の連携を強化します。
- ・地域独自の医療職合同就職ガイダンスの開催など医療・介護従事者確保に向けた取組を進めます。

● 誰もが生きがいを持ち、支え合う社会の形成

- ・延長保育・病児保育の取組や子どもの居場所づくりなど、子どもを安心して産み、育てやすい環境づくりを促進します。
- ・要介護高齢者の増加に対応した施設・居宅など介護サービス基盤の整備を支援するとともに、高齢者の就労や社会参加活動の支援など人生二毛作社会の実現に向けた取組を進めます。
- ・信州パーソナル・サポート事業の自立相談支援をはじめ、障がい者、生活困窮者、ひとり親家庭の親など就労機会を得ることが困難な方の自立を支援する取組を推進します。

● 災害に強い基盤整備の推進・地域防災体制づくり

- ・緊急輸送路の防災対策強化や河川の治水対策、砂防施設等の施設整備や山地災害危険地区の整備を推進するとともに、住宅や建築物の耐震化を促進します。
- ・道路施設の長寿命化や土地改良施設の補修・更新を推進します。
- ・防災訓練等の実施により地域防災体制の強化を図るとともに、静岡・愛知県との防災連携会議や合同訓練により、県境を越えた応援・受援等を実施できる体制を確保します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
人口10万人当たり医療施設従事医師数 医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）	188.4人 (2016年度)	200人以上 (2022年度)	南信州地域の人口10万人当たりの医療施設従事医師数 [第2期信州保健医療総合計画の目標をもとに設定]
シニア大学卒業後の社会参加活動への参加意向率 ((公財)長野県長寿社会開発センター調)	49.2% (2016年度)	60.0% (2022年度)	シニア大学卒業後にボランティア活動や市民活動等へ参加する意向を示す人の割合 [県事業の目標(年2%増)をもとに設定]
住宅の耐震化率 (建設部調)	75.7% (2015年度)	90.0% (2020年度)	耐震化された住宅の割合 [長野県耐震改修促進計画(第II期)の目標をもとに設定]

【グラフ出典】

人口推移・人口減少率：国勢調査、平成 25 年 3 月推計 日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）、管内市町村の人口ビジョン、**合計特殊出生率**：平成 20 年～平成 24 年人口動態保健所・市区町村別統計（厚生労働省）と平成 22 年国勢調査の 15～49 歳の女性人口を基に算出、**高齢化率**（65 歳以上人口）：平成 27 年国勢調査、**要介護・要支援認定率**：平成 27 年介護保険事業状況報告（厚生労働省）、**外国人割合**：平成 27 年国勢調査、**人口 10 万人当たり医師数**：平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査結果（厚生労働省）

林野面積の割合：平成 27 年農林業センサス（農林水産省）、**耕地面積の割合**：耕地及び作付面積調査（農林水産省）、**可住地面積割合**：「統計で見る市区町村の姿 2016」（総務省統計局）、**可住地面積当たり人口密度**：平成 27 年国勢調査人口/可住地面積、**道路改良率（市町村道）**：平成 27 年度道路現況（建設部調）、**汚水処理人口普及率**：平成 27 年度環境部調

第 1・2・3 次産業従業者割合：RESAS（平成 26 年経済センサス-事業所に関する集計）、**農家一戸当たり農業産出額**：平成 27 年農業産出額（県農政部及び地域振興局推計値）/2015 農林業センサス「総農家数」、**経営体当たり林業総収入**：RESAS（平成 27 年農林業センサス）、**従業者当たり製造品出荷額等**：平成 28 年経済センサス-活動調査、**第 3 次産業の労働生産性**：RESAS（平成 24 年経済センサス-活動調査）、**一人当たり課税対象所得**：平成 28 年度市町村税課税状況等の調（総務省）

【用語解説】

*スーパー・メガリージョン：リニア中央新幹線により結ばれた三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化した世界最大の広域経済圏。

*MICE：多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字。

*アダプト：自治体と住民組織が役割分担について協定を結び、道路や河川の維持美化活動を行うこと。

*飯田下伊那診療情報連携システム（ism-Link）：ICTにより参加機関同士が処方、検査、画像情報等を含む医療情報を共有、閲覧できるネットワークシステム。